

令和元年度第1回東庄町総合教育会議

1. 開催日時 令和2年2月27日
開会：午後1時00分 閉会：午後2時07分
2. 開催場所 東庄町役場 1階 会議室2
3. 議 題
(1) 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換
4. 出席者
東庄町長 岩田利雄
教育委員会
教育長 五十嵐正憲
教育長職務代理者 岩井利幸
委員 小林衛治
委員 向後元道
委員 林 英伸
説明員 教育課長 多田克己
事務局 総務課長 向後喜一郎、総務課長補佐 堀江弘之
庶務係主任主事 河津 亮平
5. 傍聴者 2名
6. 議事の経過 別紙のとおり

(午後 1時00分 開会)

向後総務課長 ただいまから、東庄町総合教育会議を開催いたします。なお、オブザーバーとして多田教育課長が同席しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

最初に町長挨拶。町長、お願いいたします。

岩田町長 皆さん、こんにちは。委員各位には令和元年度第1回目の総合教育会議ということでご参集をいただきまして、まことにありがとうございます。本日は総合教育会議の協議、調整事項の一つであります、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策につきまして、意見交換をお願いするものでございます。

本年4月からは、小学校5校が一つに統合されます。少子高齢化、人口減少社会が進展する中、知恵を出し地方創生していくために、教育の果たす役割は非常に重要なものであります。皆様方には町教育に関する課題を共有し、今後の施策方針等について有意義なご意見を賜りますよう、お願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。大変ご苦労さまでございます。

向後総務課長 ありがとうございます。

続きまして、教育長挨拶。教育長お願いいたします。

五十嵐教育長 それでは、改めまして皆さんこんにちは。令和元年度の総合教育会議に先立ちまして、教育長として一言ご挨拶申し上げます。

岩田町長には、さまざまな教育課題につきまして、このように教育委員と話し合う機会を設けていただきまして、まことにありがとうございます。先ほど町長の話にありましたように、この4月から小学校5校が統合され、東庄小学校が新たに開校されます。ここに来るまで町長初め、多くの方々のご協力のたまものであると、感謝申し上げます。

今回の総合教育会議では、統合小学校やそのほか幼稚園、こども園、中学校などの教育条件整備など、さまざまな面で意見交換会を行えるということでございます。東庄町の子供たちの教育について、統合小学校が開設される前にいま一度町長を交え意見交換をしていくこと、これは大変意義のあることであると、このように思っております。その意味からも、町長を交えまして委員の皆さんからこの総合教育会議でさまざまなご意見をいただき、方向性を見出していききたいと、このように考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

向後総務課長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。議事進行は町長にお願いいたします。

岩田町長 それでは、議題の1であります、教育条件整備など重点的な講ずべき施策につきましての意見交換を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局 本日は、総合教育会議の協議、調整事項の一つであります、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について、意見交換をお願いするものでございます。特に、今回の会議では、小学校の統合に当たり協議を進めていくべき論点の洗い出しなどをお願いいたします。よろしくお願いいたします。

岩田町長 それでは、会議に入りたいと思います。

いよいよこの4月に小学校が統合いたします。念願の一つが成就するわけでありまして、皆様方のご支援とご協力に対し、改めて御礼申し上げたいと、このように思います。

東庄町の児童生徒が皆同じ教育を受けられる環境が整う、幼稚園、小学校、中学校の一貫教育ができ上がると思います。東庄町から世界へ羽ばたく人材を育てたい、情報教育、ICT活用教育は日本は世界からおくれているという分野であります。子供たちのためにこうした教育をしっかりとできるよう、環境整備を進めてまいりたい、このように考えております。

国の補助金を活用いたしまして、小学校、中学校の校内通信ネットワーク整備事業を進め、早速3月の補正予算に計上いたしたいと、このように考えております。

きょうはこれからの東庄町の教育について、忌憚のないご意見をいただきたい。そしてまた皆様方からご意見等を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げますたいと、このように思います。

五十嵐教育長 それでは座ったまま失礼させていただきます。

それではまず最初に、私のほうから東庄町の教育についての思いを少し述べさせていただきますたいと、このように思います。

東庄町の教育につきましては、まず子供たちの児童数、この減少が平成元年から見ていきますと、平成元年、本町の五つの小学校の児童数が1,546人おりました。その後、その10年後の平成10年には1,049人。平成20年には827人。そしてその10年後の平成30年には597人と、平成元年と比較しますと、30年間に63.5%の児童が減少してしまいました。

現在、笹川小学校以外では全ての学校で単学級になっております。神代小学校では今年度2年生と3年生の児童が合わせて13名ということで、この13名という数は複式学級になってしまう人数でございます。本来であれば2年生と3年生が一つの学級で学ぶということになるわけでございますが、今年度は県から教諭を1名多く配置していただいて、複式学級にすることなく通常の単学級の小学校と同じように学校運営を行っているところでございます。

しかし、このままであれば神代小学校だけではなく、他の小学校でも児童が減ってまいりまして、複式学級が生まれてしまうのではないかと、そのような状況でございます。児童数が少なくなってくると、子供同士の切磋琢磨し合う、そういう機会や高め合う、そのような機会が少なくなってくると、このように感じていたところでございます。

小学校から今度は幼稚園にもちょっと目を向けてみますと、幼稚園は昨年4月から笹川幼稚園と橘幼稚園、この二つの幼稚園が一つになりまして、幼稚園型の認定こども園としてこじゅりんこども園が誕生いたしました。幼稚園がこども園ということで1園になり、小学校が来年から一つになる。そして中学校は前から一つでございました。

幼・小・中がそれぞれ一つになったことで、こども園から中学校までの教育を、先ほど町長のほうから一貫教育という言葉で話がありましたが、一貫というよりは太い連携を図った教育をするということで、そのような教育をやっていると、このように思っております。太い連携を図った教育では、新しい東庄小学校の教育目標、「心豊かた

くましく、進んで学ぶ東庄の子」ということで、心身ともに強い子供、心身ともに強い人間の育成を図ることを第一の目標にして、教育活動を行っていきたいと、このように考えております。

これまで五つ小学校がありましたので、それぞれ研究主題は別々でございました。研究する教科も別々でございました。当然、幼稚園や中学校の研究主題も違っておりました。来年度からすぐというわけにはいきませんが、幼・小・中が連携することにより、それぞれ一つずつになったことで、幼・小・中で共通した課題について研修を深めたり、重点化が図りやすくなってくると、このように考えております。また、連携をして研究をすることで、教師としての力量や授業技術も高めることが可能になります。子供たちのつまずきやすいところを小・中の先生方の共通認識のもとで授業を進めることができれば、子供たちのつまずきを少なくすることもできると、こう考えております。

そして、これまで小学校の中には中学校へ行くと勉強が難しくなるのではないかとか、あるいは先輩が怖いとか、部活動をやっていけるかどうかというような小学生の不安の声を耳にいたしますが、このような不安は私は当たり前のことであるというふうに考えております。大人でも経験したことのない世界に入っていくときは、大なり小なり不安を感じるものでございます。小学生が中学校に進学するときには当然のことだと、このように思います。ですが、当然のことでありますけども、小学校・中学校が1校ずつになり先生方が連携を図っていくことによって、不安に思っている部分を少しでも解消し、また中1ギャップということで中学校にスムーズに上がれない子供はよく連携をとり、中学校の先生がフォローする。また、小学校の先生が中学校に上がってからもバックアップするというような体制がとれるのではないかなというふうに思います。

そのような連携をとって、細かな情報交換を行うことによって、不安をしっかり受けとめることによって期待に変えることもできるのではないのかなというふうに思うところでございます。

ただ、そのように心身ともに強い子供、強い人間を育てるということでありますが、教育環境としましては、外国語あるいはICT教育などを充実させて、子供たちが本当に世界に羽ばたけるような、そんな教育をしていきたいと、このように考えているところでございます。

私のほうから東庄小学校になるに当たっての教育についての思いを述べさせていただきました。そのような内容を含めまして町長あるいは委員の皆様からさまざまな意見をいただきながら、進めていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

岩田町長 どうもありがとうございました。大変熱のあるお話を伺いました。教育長の考え方、そしてまた、これからの町の教育にかける考え方をお聞きました。

それからただいまの意見等踏まえまして、今、町は文科省のほうから一つGIGA教育をやってみないとお話がありました。世界の国の中でも非常におくれているということでもあります。一番おくれているという言い方をしましたけど、この整備のために子供たち一人1台ずつのコンピューターを国の助成を受けてやろうという考え方をしております。なかなかこれをやろうとするには、文科省も余りにもレベルが低くなってしまっ

たので、一気に取り戻そうという考え方があるんですが、それを来年ということではなく、今やれるところはもうすぐでも参加してということでありましたので、補正で行けるだろうということで、3月定例会に組ませていただいたわけでありますけれども、それを含めて皆様方からも、そして今、教育長が述べられたことを踏まえて何かありましたらお願いしたいなと思います。

林委員。

林委員 ありがとうございます。今町長からお話しいただきました、情報教育、ICT教育について、特に補正予算、3月議会も含めてですけれども、計上していただけるということで大変ありがたい状況だなと。

私どもも1月16日、本年の。文科省の研修会がありまして、そちらでも文科省のほうからGIGAスクール構想を始めるんだというような話を聞いておりまして、特に文科省のほうは設備面のところで各自治体のほうに非常に強力なプッシュをしてくださるというようなことで、そういった話の中の町長からのお話でもあろうかなというふうに考えております。

ただ、今冒頭にこの会議の議事の条件整備など重点的に講ずべき施策についてということだと思うんですが、やはりICT教育って道具だけそろってもなかなか教育環境が全て整ったかという、なかなかそれは十分ではないのではないかと。実際それを先生方がどのように活用して、あるいは子供たちがそれをどう使えるのかという視点がないと、なかなか実際には子供たちのそういったスキルが向上していかないんじゃないかというような議論を教育委員会の中でもさせていただいております。

そんな中で今国の補助も含めてですけれども、あるのはどちらかというハードウェアの部分でありまして、これからやはり重要なのは、それをどう先生方が活用できるような環境整備をしていけるのかということが非常に重要だと思います。その中にはやはり先生方、従来の指導というのももちろんありますので、文科省の資料によりますと、かなりICT教育に特化した補助教材というのを先生方が使いやすい形にしてくださるというふうには出ているんですけれども、過去の今までのコンピューターを導入しようと言った経緯なんかも、なかなかそれが実際に先生方に使いやすい、浸透するまでにはかなり時間がかかっているという実情があると思います。そういった中ではやはりある程度そういった先生方の教育を支援していただける方々、人材の面、そういうのをやはり少し視野に入れていく必要があるんだろうなと、それを今導入いただいている機材を活用するために、どういった人材が必要なのかと、そしてそれを先生方をサポートしていく体制というのを同時に整えて、それを進めていく必要があるんじゃないかなと考えております。

その中でもう一つだけお話をさせていただくと、これ何も本当に一流のITエンジニアを連れてきてくださいということではなくて、これ、現場の先生方からも少し聞いたんですが、そんな専門家じゃなくてもちょっと例えばこの授業についてこういう資料を使いたいんだけど、先生方は授業で手が離せないものですから、少し調べておいてもらって、その調べたデータだけをまとめておいてもらうとか、そういった人とかでも

全然すごく助かりますというようなお話をいただきました。

なので、なかなかそういった一流スペシャリストみたいな方を連れてくるとなるとコスト面だとか、あるいは時間面だとかも難しい面もあるんでしょうけれども、そうじゃなくて、ちょっとしたお手伝いをしていただける、少しITスキルはもちろん必要だと思うんですが、そういった方々をお招きをして、あるいはボランティアみたいな形で退職した方なんか含めて来ていただくと、先生方もICT教育を、道具をより有効に使えるようになるんじゃないのかな。そういった面、どちらかというソフトや人の面になりますけれども、そういったところを今後我々教育委員会も含めてですが、一緒に検討させていただければというふうに考えています。

以上です。

向後委員 G I G Aスクール構想に関しましては教育委員会の中でもいろいろお話しさせていただいて、今、林委員のお話が大体なのかなと思っております。設備だけ整えても教育内容が充実しないというのは、これはただの宝の持ち腐れになってしまうということで、ぜひそういう方向性でお願いしたいと思います。それ以外に小学校統合、すばらしい学校をつくっていただき、本当に感謝しております。

ただ、その中でまた先生方の働き方改革、先生方に限らず働き方改革という中で、これから先生方の勤務時間も短縮されると、そういう中で部活動等の支援をどういう形でしていくかと、これをある程度の公費の中でやっていけるのかとか、そういうこともぜひ、我々も考えなきゃいけないんですけど、町長にも予算を伴うようなことに関しては、ぜひ考えていただきたいなと思っておりますので、ひとつよろしくお願いします。

小林委員 それではせっかくの機会ですので、まず最初になかなか町長とお会いすることもできないんですけども、今までの経緯を所見という形で述べさせていただきたいと思います。

まず小学校関係、やっとなめどがついて4月から開校することができるようになりました。それから中学校関係でも技術棟の解体、空調設備、それから駐車場・駐輪場の新設。それから給食センターの厨房設備設置工事や備品食器購入、調理業者の選定など、ほぼ決まって、ただ給食センターについては若干スタートが半年くらいおくれるということになりましたけれども、これはいろいろ業者選定の中でなかなか業者がすぐ捕まらなかったという面もあるのかもしれませんが、こういうことでとにかく相当な大金をかけてここ何年間やっていただきまして、本当に、そのほかにもこじゅりんこども園ですか、これに支援するとか、それから給食費の無償化、授業料無償化等でとにかくいろんな面で協力させていただいて、これはやはり町当局のご理解と、それから議会等の協力がなければとてもできなかったのではないかと今さらながら感謝をしているところでございます。町長には日ごろから、子供たちのためなら惜しみない支援をすると、こういうことを何回も私は聞いております。今後ともそういう面でひとつよろしくご支援をお願いしたいと思います。

それで本題のほうに入りまして、このG I G Aスクール構想なんですけれども、これは当初、G I G Aスクールというのは私もそんなに古くから聞いている言葉じゃないん

ですけれども、小澤教育長のときから学校の統廃合した場合には、やはり子供たちに端末1台を持たせるような、そういうような形がいいんじゃないかという話で、進めておったんですけど、何しろこれだけのものをやるのにあっちだこっちだとやっていたのではまとまらないという面もありまして、ハード面をとにかく整えると。その後でまた考えていたほうがいいんじゃないかと。

それともう1点は、この東庄だけで例えばこういう進んだものを一気に入れても、今度は教員関係とかそういうものの手配とか、そういうものを、まして先生方の人事異動等もありますので、そういう面でも果たしてそれが十分に機能するかどうかという面もあったので、まず少し様子を見てこちらが落ちついてから考えるほうがいいんじゃないかということもちょっとありました。でき上がったらまたそちらのほうも考えていかなきゃならないということだったと思います。今回たまたまこれ、町からというのを国からの出たのが、総合経済対策の一環として出てきましたけれども、いずれにしろやらなくちゃならないことは事実だと思います。そういうことでこれからこれはとにかく我々も町も協力していただいて進めていかざるを得ないのかなと思っておりますので、そういうことでよろしくひとつお願いしたいと思います。

あと、これと関連したものについては、とにかく新学習指導要領がスタートしております。それから今先ほどちょっとありましたけれども、外国と、ヨーロッパ関係と外国と比べて力が落ちてきているという面もあって、新たに入れるということなんでしょうけれども、これも今は英語でも何でも新しい教育指導要領の中で、アクティブ・ラーニングを取り入れたというようなこと、それから新教育指導では20年ですか、20年度からだから英語教育を入れるということになってくると、やはりそういう面でどうしても必要にならざるを得ないのかなという感じがしますので、それも含めてひとつよろしくご協力をお願いしたいと思っております。

一旦とりあえずここで終わります。よろしく申し上げます。

岩井職務代理 岩井です。よろしく申し上げます。

先ほど教育長のほうが児童減少の話をおっしゃっていたので、ちょっと児童減少のお話をしたいんですけども。できれば子育て世代の人たちを町に呼び込んでいただき、子供たちが成長したときに、この町でも起業ができるとかそういう環境をつくっていただきたいというのがあります。町長はやっぱり全国町村会で活躍していらっしゃるの、広い視点で今はやっているグローバルという言葉、グローバルの視野でローカルを考えていただき、この町を発展させていただけると、とても助かると思います。

I C T教育なんですけれども、小学校にまず今後、端末を一人1台配備させてくれることですが、プログラミング教育の授業は特にプログラミング教育という授業はなく、各教科に取り入れるということなので、ということはプログラミングや情報処理を未経験の先生たちが今から覚えて子供たちに授業するということなので、先生たちは能力が高いのでやれるとは思いますが、O E C D経済協力開発機構の中で調べた中で、勤務時間が一番長い、授業に対する時間が最低レベルの先生たちに、これ以上そういう時間を割かせてよい授業が受けさせられるのかと思いますので、林さんもおっしゃっていたよ

うに、早い段階でパソコンを使った授業の方法や授業中の機器の配置、補償対応のなどのアドバイスができるコンピューターの師匠というか、インストラクターをつけていただけると助かると思います。

以上です。

岩田町長 どうもいろいろありがとうございました。皆さん方からご意見をいただいたわけでありますけども、大変な時代になったなというのが実感であります。というのも、子供が3人に1台とかと言われた時代がありましたけど、今なぜこういう状況になったかということで、文科省のこれを推進している担当者と会ったんですが、実はこれを教えられないということになってくると、世界のレベルから大きく後退するという話をしていたんですね。本来はやっぱ難しいものだとして捉えていたんですけど、日本人の子供たちは遊ぶのは非常に上手なんですけど、何かいろいろ何というんですかね、物を調べたりなんかするところまで余り行っていなかったり、新しい発見をしたりということがなかなか下手くそだというか、そういうのがヒントとしてほんたとあると、もっともっとコンピューターというものを自分のものにして自分から操作したり、いろんなことがわかっていくだろうと、こう言っているんですが、指導する先生方にも、急激にコンピューター事業ということで、無理なところもあったのではないのかなと。

ですから、指導者ではないんですが、先生とかそういう立場ではないんですけど、コンピューターそのものを操作する人たちというのは、国も欲しいんですけど、なかなか国に就職してくれないんです。民間企業に行っちゃう。民間企業のメーカーに行ったり、そういうところで機械を操作するのではなくて機械をつくるほうの分野に回ったり、操作のかなりグレードの高いところに行ってしまう。

今、国もやっぱりいろんなことのコンピューター社会ですから、徴収の問題だとかいろんな法的の裏づけにあるいろんな問題もコンピューター化の中で資産運用していこうということで、国自体の役人としてそういう技術者を呼ぼうとしても、その上の技術者はみんな民間に行ってしまう。そのくらいおくられている。本来はグローバルな考え方をすれば、もうその人たちは国の第一線で仕事をしている人たちなんだけど、今やっている国との比較の中でははるかに民間の人たちも海外で仕事をしますから、そういうレベルの中で仕事をしたほうが操作したりなんかする分野でははるかに進んでいるんですね。ですから国も間違いが起きると、何で起きたんだと聞くと、今非常にこの分野の職員が足りないんですと、こういうお話もしている。それも大きな要因になっていると思います。ですからこれからの社会は、もう誰が操作を教えるか、できるかできないかというようなことであるというよりも、みんなのできる人がそれなりの指導ができる立場にいて教えてあげたり、またそのならないところにすぐ答えてあげたりというようなことが日常化しているような進め方のほうがいいんじゃないかと。教育の分野という部分では余りにもかしまってしまって何かを恐れるというよりも、操作をすることに何かを得るということがあると思うんですね。

例えば民間の話をしていただきます。かつては今の日本の製鉄は、いわゆる高炉を使っていましたので鹿島製鉄所、住金といいましたけど、あのころは従業員が一番やっぱ1，

000人近くいたんですね。高炉の人たちの仕事というのはもう大変な仕事だったんですね。かなり体にやけどを負ったり、そういうような仕事をしていました。今はコンピューター制御なんですね。これがAIにかわってくるだろうと。ですからご安全にということで、いわゆる高炉マンという人たちは鉄鋼マンの中でも第一線で仕事をしていたんですけど、今は女性がコンピューターを制御している。扉の開閉をいたします。ですからご安全にヘルメットはかぶっていますけど、操舵室に入っているだけの話です。全部仕事ができるんですね。そうすると、そのときにいわゆる高炉マンとして仕事していた人たちは要らなくなってしまったので、それをみんな機械化されているので、ロボットがやるという時代に入ってきたと。だから操作できるというのは人間の何倍の能力を発揮するわけですから、それがいわゆる職種の中で今まで無理だろうと言われた人たちも、その職種にいわゆる操作ができるということであれば、肉体的なものの力を持つ、頭脳を持つ、そういう人たちがそれなりの仕事を持つというようなことになると、私は思うんですね。

ですから今全国的に人口が減っていますが、企業誘致って非常に難しいなと思うのは、さんざん人が働くことによって会社の収益を上げていく時代と、いわゆるそういうコンピューター社会の中で機械がオートメーション化されたり、AI的な頭脳で動くということになると、人間がいなくても操作はできる、そして交通の利便性が高いところが残るといことになりまして、人口はふえないかわりに生産性は上がるところと上がらないところがかなりウエートで差が出てくるんだろうなと、こう思うんですね。

ですから高速道路ができると、どんどん、どんどん南から今、北へいるんな自動車メーカーの工場がどんどん、どんどんできているので、栃木県あたりからこれは限界かなと思ったら何とその上にどんどん、どんどん車の会社が工場を持って分散化をして、車種によって工場を分けていったりなんかすると。そういうような時代に入ってきたなという気がします。

ですからこれからの社会は、先生方ももちろんでありますけども、そういうこと、質問したんですが、先生方で全部教えていくんですかと、私が聞いたら、いや、そうじゃなくて、これからそういう分野にたけた人たちもいれば、教師という立場ではないんだけど、その操作をするということでの指導は幾らでもできるような人たちを送り込むと、こういうようなことは言っておりました。ですから教師の仕事は奪うのではなくて、先生方にも一緒に学んでもらえて、子供たちも操作ができるようになれば。一緒にレベルアップしていくんだろうという話でありました。

ですからそういう技術にたけた人は、技術を皆さんに教えたり伝えたりすることによって、会社に貢献する。またその受けた人たちもその受けたことによってレベルアップしていくと。こういうような社会がつくられていくんじゃないのかなという話をしておりました。この話を聞いたときに私はそんなに急ピッチでこれをやる必要なんかあるのかと、最初は思ったんです。国はいつもやれやれと言っている割には途中でいやでも話が全く違うほうに行ってしまったたりなんかしますけど、これはもう別なんだと。国の威

信をかけてやるということでありましたから、じゃあそういうことなら皆さんいかがですかと、全国の北海道から沖縄までの会長さんたちに諮ったら、皆さんができることなら率先してやりましょうということで決定をした部分でありますので、それならば補正をとってでもやってみようかということで、今回の補正で組ませていただいている。やったところから仕事を国がやるというようなことであつたので、それならば一番最初に手を挙げたほうがいいたろうということで、国のほうに諮ったら補正でもとれますよということだったので、お願いしたいとこのように思っています。

今、コンピューターの話をしました。

五十嵐教育長 今、コンピューターの話。よろしいですか。今、ICT教育につきまして、委員の皆様あるいは今町長の思い等も聞かせていただきました。私はこのICT教育については次のように考えております。まず、ICT教育、一人1台ずつパソコンを持つわけですね。何を教えるのか。目的は何なのかと。ここが大切なところだと思います。

文部科学省で言っている目的は、プログラミング的思考を身につけるとするのがまず一つ目であると。二つ目がコンピューターの社会的な役割、あるいはコンピューターの得意不得意を理解してもらおうと。これが二つ目だと。三つ目にプログラミングを活用することでパソコンを活用すると言っちゃったほうがわかりやすい、プログラミングとは若干違うかもしれませんが、パソコンを活用することで各教科の学びをより深めてもらうと。三つあるというわけですね。私は思うんですけども、先生方に一人1台ずつ持ったパソコンを使って数学とか算数を教えるというと、これはかなり難しい。理科をやれと。これもかなり難しいです。文部科学省はそれをプログラミングしてこんな指示を出したらこういうふう動くよというような、理科の授業だとか電気のことだとかで、例としてやっていますけれども、あれを自分で考えて先生方がやれというと、これはかなり難しい。そこで、私はまず思うんですが、今回町長のお計らいで東庄町の子供たちに一人1台ずつパソコンが少しずつついていくわけですけども、ついた段階で、まず子供たちがパソコンになれる、そこからスタートじゃないのかなと。

我々が日本語を覚える、生まれたばかりの子供が日本語を覚えるときには、初めは親の言葉、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの言葉を聞いて、ママ、パパから始まり、少しずつものまねをやって、そしてある程度知識を身につけた段階で小学校1年で日本語についての文法的なところとか、主語述語とか習っていくわけですね。パソコンも最初からすぐそんなに高いところではなくて、まずパソコンになれるということがすごく大切なのかな。そのためにも、ぜひ私は授業で使うように先生方に言おうと思うんです。どんなところで使ってもらうか。一番簡単な検索。例えば徳川家康について調べたいといったときに、図書館に行っても調べられますけれども、パソコンを使っても調べられるわけですね。その調べたことをもっとパソコンを使って深く学んでいくというようなこともできるわけです。そういうことをぜひやって、まずなれさせることが大切なのかな。なれさせるために恐らくこのくらいだったら先生方もできると思うんです。それ以上のことをやるとなると、先ほどからちょっと話が出ています

ように、それなりのインストラクターとかが必要になってくるのかなと思うわけです。

ですから、まずパソコンが一人1台ずつ入りましたら、最初のその段階を子供たちにやる、そのためには正規の授業ではなくて例えば総合的な学習の時間とか、そんなのを使ってもいいのかなというふうに思うんです。それで、なれてくるということは、先生方も一緒に調べるわけだから、一緒に少しずつコンピューターになれていく。そうすると、少なくとも子供たちよりはいろんな試行錯誤をして今までやってきているわけですから。かたい先生もいます。頭がかたい先生いますけども、やわらかい先生に聞いてもらいながら、少しずつ先生方も覚えていくと。ちょっと年配の先生方は難しいかもしれませんが、若い先生方はかなりできると思うんですね。そういうようなことを繰り返して行って、子供たちにパソコンを抵抗なく使えるというふうにして、それから学習の中に取り入れると。やっぱりこの手順を踏んでいかなければ、それこそ宝の持ち腐れ、私は嫌だなと、パソコンをさわるとの嫌だなという先生がふえてきて、そして昔ちょっと話題に出ました、LLという機械がありましたけれども、あれはいつの間になくなってしまいました。同じようなことにはならないと思うんですが、そうならないように学校の中でうまく使えるようにできたらなというふうに今委員の皆様あるいは町長の話聞いて思いました。そこまでやっておけば、社会に出たときに抵抗なくパソコンを使える。そしてこうやったらこういうふうになるんじゃないかというようなことを考えられる、そんな東庄の子供になっていってくればなというふうに思っているところです。

すみません。町長の、取っちゃいました。

岩田町長 教育長から今お話をいただきました。そうですね。一時的にコンピューターを使える人と使えない人の職種というか、選ばれた時代がありました。いわゆるコンピューターの操作の得意な人というよりも、自由に操れる人と余り得意じゃないなという人的な職種まで分かれた時代が少しあったんですが、今はそういう時代ではだんだんなくなってきました。しかしながら、まだその職種という形が残っているということは、特殊な位置づけのまだ部分があるのかなと思います。というのはこれもみんな同じように操作としてできるようになれば、使い方も違っだろうし、また専門分野的なものの要素も違っだろうし、いろんなことが生まれてくるんですけども、今の時代の中では、子供たちみんな公平に平均的に同じ操作が上手にできないという部分があると。その部分が世界の国から比べると落ちたなというようなことが言われているんじゃないのかなと。ですから、操作性の高い人たちにしてみれば、そういうことはなくて、やはり先進国の一つに数えられていますから、かなりレベルの高い仕事をしていると私は思っております。ですから、これがもう少し時がたってくると、みんながその位置につけるくらい能力を持たせるというのも国の考え方ではないのかなというふうに思います。

ですから、今いろんなものが変わってくると思うんですね。何かの説明をするときに、分厚い、今までは紙に書いたものが製品の中に入ってこう使うんですよといういろんな説明書が入っていたやつは入ってこないだろう。多分それを番号で調べていくとそれがきれいにわかるようになってくるだろうと。もっとわかりやすく言うと喋ってくれるだろうという時代に来るだろうなと思っているんです。

例えば今、海外に行って同時通訳の機械を持っていきますと全然平気なんですね。ここでしゃべっていてスイッチの操作だけしますと、相手のやつもそのまま喋って、聞くのは相手に伝わる時はその国の人の言葉です。返ってくる時は日本語で返ってくる。ですから今までこのやつをこっちに持っていったりこっちに持っていったのではなくて、両方のやつが一気に入ってくるんですね。ですから、今までの通訳の仕事がなくてもできるくらい素早い動きで会話ができるというような時代にもなってきたと。ですからこれもやはりそういう一連のもののなせる技ですから、今後はもっともっとそれが世界に広がっていくと、国境なきものになってくるんだらうなという思いがします。

いろいろお話を聞きました。いろんなことを含めて、教育の分野が大きく変わろうとしているということもあります。町が目指す、もし小学校が一つとなって目指すところがあったとすれば、従来型の教育の中を継続はいたしますけれども、先ほど言った独特の教育もまた生まれていくチャンスかなと、こう思ったものですから、新しい幕あけのスタートとともに、まだ近隣ではやっていないというようなことも含めて同時スタートをさせていこうかな、一つの目標がつかれるかなと、こう思ったものですから、あえて今回の場合ちょっと急いでこの取り入れを皆様方をお願いしたいと、こう思ったわけがあります。

これから開校していくのには準備はどんどんしておりますけれども、学校が一つになる、距離感がなくなる、そして同じ教育を受けられる、ですから目指すものがあるとすれば、やはり今よりも数段充実した、子供たちにとっては楽しくて、そしてまた大勢の友達ができ、みんなで楽しく過ごせる時間が多くなるということですから、今まで以上の効果が出てくると、このように思っています。

そういう中で先ほども申し上げました、グローバル社会ですから先ほどのコンピューターもあります。英語教育も今どんどん入ってきて、先ほど言った同時通訳機もありますけれども、まず耳で聞く、そしてまた少しでも喋れる、話すということが自然に出てくるというような時代にどんどん、どんどん突入してくるんだらうと思います。

今これで会合するに当たって、町の教育というのは将来的に給食だとか今後、プールが全然人気がなくなってやめてしまったけれどもこれもやはり水泳、体を鍛えるためにもスイミングというのは必要なんだらうという思いがしますけれども、そういうようなものを含めるといろんなものがあると思います。

例えばの話、一つずつ申し上げます。開校に向けての皆さん方の考え方、そして英語の授業というのはもっともっとどうするんだらう、また教育機関としてのスクールバスもあります。それと放課後児童クラブもあります。乗りおくれたり乗ったり、子供が兄弟でも一緒に帰れないという難渋なところもあります。でもこれは大人の力で幾らでも何とかいいますか、知恵を絞ればいろんなことが可能なんですね。

また町は今スクールバスだけじゃなくて、巡回バスも走っています。巡回バスは交通弱者は誰でも乗れるとしてあります。目的がそうであります。免許を持たない人ということになると、子供たちからお年寄りまで普通の人でも乗れるという形で運行しています。ですからそういう車種が何台も走るわけですから、これをみんなどういうふうにし

て応用していくかということで、交通機関のあり方そのものがまた変わっていくと思います。

だから、例えば1分野で物を貸し出せるとすると、自分たちではできないと、そんなやつはやっていけないんだと、そういうようなことを言います。しかし交通機関というのは、町の中を巡回するわけでありますから、誰でもが載れるものでなければいけないと、こう私は思います。

長野県に川上村という村があります。スクールバスを朝晩走らせています。昼間はバスが遊んでいるんですね。でも町内を巡回するために使ってくれないかということになると、これはだめなんですね。文科省に言うとだめだと言うんです。しかしながら国交省へ行って許可がとれるんです。大臣さえオーケーすれば、許認可はオーケーなんです。こんなに大変な村にバスが昼のうちあいているじゃないかと。そのあいている時間を町民の高齢者のために使わせてもらいたい。許可を出せるのは、大臣が許可できるんです。ところが省庁へ行くと全部だめになってしまう。文科省に行っても全部だめなんです。スクールバスは使えませんよと。だけどあるところに行く使えるようになる。一人の人の考え方でオーケーが出るんです。それが国だと私は思いますけども、巡回させている。

ですから、やはりそういうようなことがこの町でもいい意味でオープンにグローバルに使えるものがあるとすれば、せっかくあるものを大いに使うことによって町民の足になったり利便性につながるとすれば、いろんな手を使ってやれるんだらうと私は思っています。使わなくても自然に、さっき言った巡回バスは乗ってはだめという人は誰もいないんですね。町民の人たちが乗れるんですよ。特にそのための許認可をどうやって許認可してもらったかということ、いわゆる交通弱者として、免許のない人、高齢者、それから子供たち、前は高校生が乗ってきて、しょうがないと言ったんですけど、それは雨の日だって台風の時だって通学があるんだから、あいてりゃ乗ったっていいよと私は言った。あいてりゃ乗っていてもいいよ、大丈夫だよと。そういうものを含めてこれから皆さん方はいろんな意味で基本的任務という形ではなくて、町を今度は盛り上げていくというか、子供たちも含めてオープンにしていくためのいろんな考え方があれば、お聞かせいただければありがたいなと思って、よろしくお願ひしたいと思います。

教育の分野というに限られてきてしまう。この分野がこういう意思でオープンになったりしていくことが今の町の各小学校があったよりも数段もっと利便性が高くなったり、そしてまた統廃合したいいい意味での価値があるんじゃないのかなというのがありましたら、お願ひしたいなと思います。

林委員 はい、ありがとうございます。

少し教育の現場を離れてというお話だと思うんですけど、一つは丸っとは離れ切れないいんですが、給食センターですね、例えば災害時ということもありますし、あるいは給食センターもスタート時は恐らく食数的にはかなりいっぱいいっぱいといいますか、ほぼ定数なんでしょうけれども、残念ながらその後何年かしてくると、子供たちの数が減って余力が出てくるという形になってくると思います。そういった中では、例えば独居

の方々にそういった給食をご提供するだとか、あるいは民間を圧迫しない範囲ということになりますけれども、せっかくある施設なので、あるいはこういう役場ですとか、そういうところで食数がフリーというのはなかなか難しいんでしょうけれども、ある程度数が予約できるとか。

そういった形で給食センターも行く行くは広い意味で活用できるとプラスの面を持つかなとかというふうに思っております。そういったような活動も、あとはスクールバスももちろん昼間の件もありますので、給食センターも法律的には少し難しい面はあるかもしれないんですが、今町長おっしゃっていただいたように、いろんな方法を考えれば可能なのかなというふうに思います。

以上です。

向後委員 そうですね、今、林委員の話の中でも、給食のほうもそういう活用ができるのであればそういう活用も考えられたらいいなと思っております。

また、スクールバスの昼間の活用についても今おでかけ号が走っています。その辺との整合性がとれればそういうことも可能なのかなと。旭の巡回バスなんかも、高校生の話もありましたけど、東庄の子供が、海上の外れまで行って、そこからだったら海上のバスが出ていますから、100円かな、払うと旭のほうまで通えるんだということもありますし。だからそういう活用方法も可能なのかなと思っておりますが、

岩田町長 ありがとうございます。

小林委員 それでは私のほうからは、小学校のプールの関係ですけれども、私はこれは個人的な意見としては、現在の笹川小学校のプール、あれを活用するんだと、あとは神代小と石出小ですか、あのプールをうまく活用して、というのは何でかということ、活用期間というのは非常に短いんですよ。これは新たなプールをつくって物すごい大金をかけて果たしていいのかどうかという感じがあるので、どうしても必要だということであれば別ですけども、子供たちだけに使わせるプールをわざわざ立派なものをあえてつくる必要は私はないのかなという、正直なところ思っているんですよ。一般の人も活用できるというものであればまた話は別になってくるかもしれませんが、これまた大金がかなりかかるんじゃないかと思います。そういうことになると、今時点で私はそういうあるものをできるだけ活用して、ましてこのスクールバスもありますし、こういうもので運ぶということであれば特に問題ないのかなという感じがします。

それが一つと、あとはちょっと問題点としているんですけども、小学校を統廃合した場合には、従来はまた各地区笹川、神代、橘、東城ですか、これみんな振興会等もありまして、それでやはり我が学校と、石出も含めて我が小学校だという、みんな思い入れがやっぱりあるんですよ。それがやはり今度は笹川に来ると、どうしても、私は神代ですけども、笹川のほうに行っちゃうだろうということになると、やはり力の入れようがちょっと変わってくるんじゃないかなと、落ちてくるんじゃないかなという懸念がするものですから、これはまだ私は頭の中に構想がないんですけども、やはり何とか他人事でないようなそういう取り組みというのができていけばいいのかなという感じがいたします。

そうしませんと、みんな遠くなったところは「いいや、中央に任せておけばいいよ」という感じになっちゃうと、ちょっとまずいのかなという感じはしないでもありませんので、そういう面でお願いしたいということですね。

あとはさっき町長から話がありましたけども、GIGAスクール構想ですけれども、早速予算をつけていただいたということですので、本当にありがたいことだと思って、教育委員会でもやっぱり早急に検討して、どういう方向がいいのかということで進めていきたいなという感じではあります。

大体今のところそういうところですね。あとは中学校がかなり傷んでいるところが、特に南棟への外廊下ですか、この屋根なども大分錆びちゃっていて、来年落ちてしまうというような感じも見られるので、その辺も含めて、どっちにしろ中学校も遅かれ早かれ修理するか何かやらざるを得ないのかなと思いますので、またそちらもひとつ検討のほうをお願いしたいなと思っております。

大体私は以上です。

岩田町長 わかりました。

岩井職務代理 私からは給食費の無償をぜひ継続していただければと思います。統合後の小学校なんですけれども、私の知り合いで香取市の山田地区のPTA元会長に聞くと、やっぱりバスルートの件でかなりもめるという話を聞いて、やっぱり山田地区と香取市のかなり距離というか、心の距離というか、そういうのがあってかなりうまくいっていないそうなので、ぜひ東庄町では子供会とかPTAとかによって、柔軟に、余り緩くなっちゃってもしょうがないと思いますけど、対応していただきたいと思います。

もう一つの問題は、PTAで廃品回収をしてリサイクルをしている地区とない地区があったそうで、そこで山田のほうは結局やっていない地区の人はノウハウがないので、みんなでPTAでやろうといてもやらなくて、やっていたところだけでやっているというばらばらで自由になっていたということで、もしそういうのを、笹川地区は特に廃品回収をやっていないので、町のほうで協力してやっていただくとスムーズにいくと思います。

五十嵐教育長 今、委員の皆様からいろいろ聞いて、私、事務局ですのでいろいろなるほどなと思いながら聞かせていただきました。

まず林委員の給食センターの活用について、例えば独居老人の方のために活用できればなお話がありましたけども、本当にそういうような場面では活用できるようになるかなと思うんですが、毎日活用する場合には、今、小中学校の子供たちのために栄養士1名がいるわけなんですけど、それ以外の部分については、町のほうの栄養士さんとかそういうような方を配置してもらってやっていただくような形でなければ、今子供たちの今アレルギー対応だとかも含めてあっぴあっぴしているの、そのもう一つのことということであれば、私の立場としましては、町のほうに栄養士さんをお願いしたりなんかして、ぜひそういうようなときには独居老人の方のためにとかということにはそういうふうにならぬように栄養士さんをもう一名配置してもらいなりして、活用できたらなど。施設のほうはあるわけですから、ぜひそんなふうによれたらな、なんて思いました。

あと、小学校のプールについては、小林委員の話がありましたように、神代小学校のプールあるいは石出小学校のプールなども視野に入れながら活用できればなど。確かにバスがあるわけですからね。ただ、今現在は笹川小学校のプール、改修をしまして上の部分を改修し、今バスの乗降場になるところでフェンスのほうもこちら側がきちんとやりますので、その中でやってみて、その上でもっと活用するというのであれば、神代とか石出とか活用できるかなというふうに思いました。

またいろんな場面でご意見をいただければと思います。ありがとうございました。
岩田町長 いろいろご意見をいただきまして、まことにありがとうございました。もう本当にそのとおりでありまして、一つずつ応えていくとスクールバスの問題一つにしても今までどっちかという分野ごとにお話を進めてきましたが、全体会の中でお話を進めていくというのは余りなかったですね。その担当の中で話を進める。そうすると後になってきてこれは使えるんじゃないか、使えないんじゃないかというんな話が出てくるんですね。そういうことをやっていると最終的にはだめになったりするケースが非常に多かったんですが、実際国が少しだけ方向転換すれば十分使えたり、利用価値が高いものになってくるはずなんですね。そのあたりをどこでどういう位置で理解してもらうかということもお願いするほうにも、やはりそういう知恵が必要なんだろうと私は思っていますね。

例えばさっき話の中で言いました、子供たちの数よりはるかに年配の高齢者の方が多いのに、子供たちだけが乗れて高齢者が乗れないというのは問題があるんじゃないのかなと、こういう話が出たときに、国は困っちゃうんですね。そう言われてみれば学校というのと、子供たちの分野よりも高齢者のほうが多いところは利用価値が高くなる、日中でも使っているのに使えないという、車は遊んでいる。それならどうにか町内を巡回するものがあれば使わせてあげようと思うのは、やはり国も同じだと思うんですね。それとそこに携わる人も朝晩だけで仕事をして昼間は下がってしまう、日中は何をするんだろうということになると、勤務時間というのがあってないような、そうするとみんなこれ喜べるものは何だと考えたら、朝晩、午後は子供たちの送迎にも使えます。そのときは年配の方はご遠慮ください。その間に走っているバスはいつでも使ってくださいというような、親切であって有効打であって、ドライバーにしても一日仕事にありつけるというかできる。誰を拾ってもだめな人はいない。そういうものをやはりこれからみんなで考えていく時代に入ってきたなという思いがします。

ですから、今日いただいた話は、あとどうやったら応用がきくかどうかとか、どうやったらこれが有効打になるかどうか、もっと有効打以上なものがもしあるとすればどうしたらいいかとかとなると思います。そのあたりも課題として考えていきたいと思っています。

給食の関係も確かにそうです。災害のときは給食センターの備蓄の米を使いました。一週間分の米は持っていますので、どうか持ってきてくれと。こういうときに使わないで、皆さんにお願いするよりはそれを使ってしまおうと。しかしながらそれを使うと決めたその後に、いろんな人たちから援助があってこれを使ってくれと来るんですね。

ですからやっぱり人はありがたいなとか思っていました。でもいざとなったときにそういうものが応用として使えれば、一番手っ取り早いものから使っていく。ですから給食だけでなく町民の人たちを救えるものだったら子供はもちろんですけど、みんなが使えるじゃないかというものを優先していく。これも大事なことだと私は思っています。

いろいろ、バス、そして給食、災害時の対応、そして給食の無償化の関係、放課後の子供の関係も含めて、これからはスクールバス以外でもいい手を使って送迎をできるものを残してあげたいなと思っています。

バスは巡回しています。ですからその前を町内の巡回バスが通って行って、子供たちはこれだけしか乗れない、もっとうちに早く着きたいんだけどというようなことがあれば、スクールバスに乗れないで家の人を待たなくていいということがあれば、その近くのところまで迎えに行ってくれませんかというだけで子供は町内循環バスからおりてこられると、そういうのも必要になってくるんだろうと私は思っています。

いろいろなお話を伺って本当に参考になりました。本来はこういう会議は何回も持つべきだと私は思うんですけど、なかなか聞くチャンスが本当に少なく大変申しわけなく思っています。町はこれからやはり皆さん方を中心に大きく状況が変わってきますので、また地域の関係が少し残るかと思えます。やはり振興会の件も私は聞きました。神代には小学校振興会という名前ではなく、神代振興会。ですから地域の全体で見るという振興会で、学校によっては何々小学校と名乗っていますから、それを証明するのかというところもありますけど、私は話聞いたら神代は神代の地域の子供たちをみんなで見守ってあげようという組織だと、そういうような話を聞きました。考えるのにもそういう対応の仕方というのいろいろあるんだと思っています。教育の問題にしては一番大事な問題だとこのように捉えていますので、この機会があるごとに、何かあればいつでも呼び出していただいて、ご相談していただければとありがたいなと思えます。

本当に忙しい中お集まりをいただきまして、まことにありがとうございました。これからは皆さん方のいろんな意味での問題が、まだまだスタートしてからのぼるかと思えます。皆さん方の意見を聞きながら、少しでも子供たちのためになれればと思いながら、一生懸命やらせていただきたいと思います。有意義な意見交換になりました。これで、令和元年度の第1回の東庄町教育会議を閉じたいと思えます。

どうもいろいろありがとうございました。4月から2年度ということでスタートします。よろしく願います。

向後総務課長 ありがとうございました。

町長、閉じていただきました。会議以外でその他ということで、もし何か皆さんからあれば承りたいと思えますが、よろしいでしょうか。

林委員 すみません。町長、閉じていただいて大変申しわけないんですが、議事の中でお話しすればよかったんですが、今年度から放課後子ども教室が開催されると、私のほうで子ども・子育て支援会議に出席させていただいておりまして、教育課と一緒に健康福祉課さんのほうで新しくスタートすると。これ、非常に重要な施策だと思うんですね。今まで学童という放課後児童クラブ、これは預かり保育に限りなく近い、保育園の先生

方が一生懸命やっていたというのはよくわかっているんですけども、さらにこれの放課後子ども教室というのは、今度は学力であるとか、今学力格差が高年部になってくるとだんだん広がっているという貧富の差もありまして、そういったものが非常に顕著になっていると思います。

そういった意味で東庄町の子たちはそういうのは余り少ないんですけども、そういうような、子ども教室を開いて開催していただくことによって、そういうことを防ぐこともできますし、また先ほど町長から幼稚園、小学校、中学校の一貫、あるいは教育長のほうからも太いパイプでという話がありましたけれども、ある意味低学年だけにこだわらず、ひょっとしたら中学生くらいの子たちもそこに通って、例えば英語のスクールをやるだとか、そうしてくると、ひょっとすると幼稚園、小学校、中学校の間のノリといいですか、この放課後子ども教室がひょっとしたらそういうような役割を将来担っていけるようなことにできれば、一番理想的な形なのかなというふうに、私自身は少し考えておりまして、そういった意味でも今年度の予算というのはかなり少ないと思うんですが、小さく産んで大きく育てるじゃないですが、そういった意味でもこれから放課後子ども教室、教育委員会としても非常に大きなテーマにしていきたいと思っておりますし、そういったところの施策もこれからお願いできればなと思うところでございます。

以上でございます。

向後総務課長 ありがとうございます。ただいま、林委員さんからご意見をいただいた件につきましては、会議内のその他の中で整理させていただきたいと思っておりますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、これで総合教育会議のほうを閉じさせていただきます。どうも大変お疲れさまでした。

(午後 2時07分 閉会)